

平成28年度NPO等による復興支援事業

いわて文化支援ネットワーク通信
アシスト・なう

19号

発行日
平成29年1月20日

発行: 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷: 杜陵高速印刷株式会社

宮古子ども劇団開講式



いわてアートサポートセンターでは平成26年より2年間、宮古地域の子ども達による「子ども音楽劇づくり」を実施し、平成26年は「どんぐりと山猫」、平成27年は「ゆきわたり」と、宮沢賢治原作の童話をオリジナルの音楽劇に仕上げ、4〜6か月の稽古を経て公演を行ってきた。

これまでは1年ごとに期間限定の活動となっていたが、通年で継続的な活動を行えるよう、今年度はいよいよ「宮古子ども劇団」を設立。宮古市民文化会館を拠点として、宮古地域の子どもたち(小学生〜中学1年生)が誰でも参加できる劇団を立ち上げた。これにより子ども達が基礎から時間をかけて指導を受け、作品作りにじっくりと向き合い、公演経験を積み重ねて成長していける体制ができた。

12月3日(土)「宮古子ども劇団」の開講式が行われた。いわてアートサポートセンター坂田理事長、宮古市民文化会館の下澤館長、演技指導の畠山泉さん、小学1年生から6年生までの子どもたち12名が出席し、年齢も学校も様々な子ども達が初めて顔を合わせた。現在の参加者は1名増えて13名となったが、これから4か月の稽古を経て、3月26日(日)に宮古市民文化会館中ホールにて公演を行う予定である。演目は宮古市生まれの児童文学作家、柏葉幸子さんの作品「モンスター・ホテルでおどろきましょう」を音楽劇として上演する。子ども達がどんな成長を見せてくれるか楽しみである。

(報告 菊池摩美)



いわて震災詩歌2017 募集事業

今年度の「NPO等による復興支援事業」の一つとして、「いわて震災詩歌2017」の募集を行った。あの東日本大震災から五年余。被災地では、深い悲しみの底から、明日の希望に向けた歩みが続いている。被災した方々の怒りや悲しみ、そして支援への感謝や被災地に寄り添う気持ちなどを詩に託して表現してもらおうという企画だ。(協力：岩手県詩人クラブ)

県内の詩人クラブや高校、大学の文芸サークルなどに広く応募を呼び掛けた結果、昨年11月末日の締め切りまでに、25人から44作品(1人3編までの応募が可)が集まった。



応募者は、20代から80代までの岩手県在住もしくは出身の方々。県内の詩壇で活動してきたベテランの方や、「被災した想いを残したく、初めて詩を作りました」という方など、様々な方々からの応募があった。作品は、自身や地元、そして故郷の被災を悼むものが多かった。

昨年12月26日(月)、盛岡市肴町の「いわてアートサポートセンター」で、選考会を行った。選考委員は、岩手県詩人クラブ会長の東野正さん、前岩手県文化振興事業団理事長の池田克典さん、作家の斎藤純さん。審査の結果、故郷、陸前高田市の被災した

兄の健康を案じる照井良平さん(70、花巻市)の作品「飛沫をあげて」はじめ、6編の作品が優秀作に選ばれた。

- 【優秀作】
- 「飛沫をあげて」 照井良平さん(花巻市)
- 「まぶしい朝が来て」 中村祥子さん(大船渡市)
- 「布告」 神久保敬里さん(久慈市)
- 「野あざみの花が咲いていた」 松崎みき子さん(陸前高田市)
- 「言はざり」 照井知二さん(北上市)
- 「Kさんのこと」 中舘公一さん(住田町)

また、滝沢市の藍沢篠さん(28)の「美しい世界」。ほか、13編の作品が入選となった。以上の優秀作、入選作計20編が、「いわて震災詩歌2017」詩集となつて、今年2月に発行される。

審査員の方々の講評は次の通り。
〔東野正さん〕
あの大震災から五年。やっとその体験を振り返って心情を整理した詩歌が出てきた感



がある。全体的に生々しく激した感情を吐露するより、クールに様々な角度から震災を見つめている作品が多かった。

〔池田克典さん〕
やはり、震災の当事者の作品が多かった。震災後の五年余の時間的推移の中で、鎮魂癒し、様々な想像力などが醸成されてきたように感じる。文学的、歴史的、地理的な地平を超えた多様な作品に出会うことができた。

〔斎藤純さん〕
詩歌は、千人に千通りの表現があつていい。そこに優劣をつけるのはつらいことだ。しかし、今回の応募作は、「借りてきた言葉」が多く目についた。収まっていなくても、突き刺さるような言葉やもつと本音を込めた作品がほしかった。

また、今年の3月11日(土)午後1時半から「いわて文化復興支援フォーラム」震災と詩歌」を開催し、今回の応募作の中から数編を朗読劇にして発表する。(会場：もりおか町家物語館/盛岡市鉦屋町)

ここでは、盛岡市出身の詩人、城戸朱里さん、作家の外岡秀俊さんを招いてディスカッションを行う。「詩の力、言葉の力」「詩人たちは大震災にどう対峙したか」「啄木、賢治の世界と震災」などのテーマを巡ってお話を伺う。



〔城戸朱里さん〕
一九五七年盛岡市生まれ。詩人。20歳で「ユリイカ」新人賞。詩集、評論、翻訳など多数。現代詩壇をリードする存在。

ジュニアアンサンブルみやこ 第2回演奏会開催

2月19日(日) 宮古市民文化会館で「ジュニア・アンサンブルみやこ」の第2回演奏会が開催される。現在12名の小・中学生が参加している弦楽アンサンブル「ジュニア・アンサンブルみやこ」は宮古市の教育振興基金の制度を活用して進められている宮古市民文化会館の教育プログラムである。通常活動はいわてフィルメンバリのレッスンを基軸に、地元弦楽アンサンブルの合同練習で進められており、驚異的速度で上達している。また、一流演奏家との交流や共演も多数設定している。共演や指導を受けた奏者はウィーンフィルメンパー、佐渡裕・スパーキッズオーケストラ、日本フィル、伊藤奏子、マーティン・ストーリーなど。コンサートでは、ヴィヴァルディやバッヘルベルなどクラシックの名曲にチャレンジする。子どもたちのフレッシュで純真な演奏は必見。



(報告) 宮古市民文化会館芸術監督 寺崎 巖



〔外岡秀俊さん〕
一九五三年札幌市生まれ。元朝日新聞社本社編集長。東日本大震災発生時には、現地取材し、啄木、賢治の世界から被災地を考察した。

詩の短い表現には、現実に対応するスピードがある。また詩の鋭い言葉は人の感情を瞬時に揺らす力がある。「いわて震災詩歌2017」詩集が被災地の心の復興の一助となってくれることを祈りたい。

(報告) 淵澤行則

「文化芸術事業助成金講座」を 釜石、宮古で開催

いわてアートサポートセンターでは、東日本大震災からの芸術文化面での復興を目指して「岩手沿岸地域の文化会館や文化団体の人材育成及び支援」事業に取り組んでいる。

その一つとして、「文化芸術事業助成金講座」を、昨年12月2日(金)に釜石市の情報交流センターで、また12月7日(水)に宮古市民文化会館で開催した。

この講座の講師は、長年、舞台芸術プロデューサーとして活動している北上市の「特定非営利活動法人芸術工房」理事長、新田満さん。新田さんは、出身地の西和賀町の「銀河ホール」や北上市の「さくらホール」など

熊本地震災害にかかる 緊急支援用募金 寄付先等のご報告

皆様からお寄せいただいた「熊本地震災害にかかる緊急支援用募金」につきまして、左記のとおり寄付先へお届けしましたことをご報告します。皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げます。

- 寄付先：熊本演劇人協議会 様
- 〔出張 百人権古！〕事業にかかる交通費・会場費として)
- 寄付金額：65,832円
- 寄付実施日：平成28年12月12日(月)振込にて
- 寄付前募金残高：66,588円
- 寄付後募金残高：0円
- (右記振込にて振込手数料756円別途使用)

熊本演劇人協議会様からのコメント
「熊本の演劇人一同、心から感謝申し上げます。東北をはじめ、今年は本当にたくさんの方々から真心を頂きました。そのお気持ちエネルギーに変えて、演劇の力を使い、まだまだ心を痛めている皆様には笑顔届けたいと思います。」



を拠点に、様々な公演を実現してきた。

地域の文化会館や文化芸術団体にとって、国や自治体、企業メセナからの助成金は、その事業推進の大きなファクターとなる。新田講師は、これまでの豊富な経験を基にして、「こんな助成金制度があるの!?」「実際に助成金を活用してこんな事業をしてきた」など、実践的な講義を行った。

参加した沿岸各地の文化会館のスタッフやNPO法人、劇団のメンバーは、「すぐに役に立つ講座でした」「助成金制度をぜひ利用してみたい」と、興味深く聞き入っていた。

この「文化会館や文化団体の人材育成及び支援」事業として、さらに「舞台・照明体験学習会」「ホールレセプション・ニスト研修」も行われる。



新田満 特定非営利活動法人 芸術工房理事長



釜石情報交流センター

岩手県管弦楽連盟 弦楽フェスティバル2016

12月3日(土)、盛岡市・都南文化会館

(キヤラホール)のステージは100名を超える出演者で埋め尽くされ、熱気ある「王宮の花火の音楽」で盛り上がった。東京シァターオーケストラの牛腸さんのトランペットを筆頭に、いわてフィルのメンバーが講師を務めた。プロ奏者と間近で共演できる大変貴重な機会に、ジュニアやアマチュアオーケストラの面々はとても満足した様子。リハーサルでのクリニックでは、徐々に一体感が増し、県内各地から集まった音楽愛好家がやがて一つのオーケストラとして機能し始めた様子は圧巻であった。ジュニアのステージでは、もりおかジュニアオーケストラが難易度の高いシンフォニアを高速演奏で弾ききり、大人顔負けのレベルを示した。続く奥州ジュニアオーケストラスクールも統率の取れたリズム感ある演奏を披露した。岩手県管弦楽連盟は、来年度より「いわて芸術祭」に管弦楽部門として参加が決定しており、いよいよ本格始動する。そのプレイベントとして開催された管弦楽フェスティバル2016は大成功に終わり、今後の岩手県のオーケストラ活動が活発化していく起爆剤となった。



平成28年度NPO等による復興支援事業 舞台・照明体験学習会 基礎編 開催!

●舞台編

～普段は見ることの出来ない“舞台の裏側”を見てみよう!～

【日時】平成29年1月28日(土) 13:00～15:30

【内容】バックステージを体験/舞台の仕組みを知る など

●照明編

～舞台照明っておもしろい!照明を操作してみよう!～

【日時】平成29年2月4日(土) 13:00～15:30

【内容】照明の種類や名前を知る/照明操作の体験 など

【会場】宮古市民文化会館 大ホール

【対象】高校生以上

【定員】30名

【参加費】無料

【申込み】下記問合せ先までお電話にてお申込、
又は右記QRコードよりメールフォームへアクセス。

【問合せ】宮古市民文化会館 〒027-0023 宮古市磯鶏沖2-22
TEL 0193-63-2511 FAX 0193-64-5445



岩手県文化振興事業団文化振興基金助成事業 文化芸術基礎講座・いわて塾 開講中!

殺陣、歌唱、身体表現、ショートムービー作成の4つの分野の入門・基礎講座を開講中!

既に終了した講座もありますが、下記3講座はまだ若干の余裕がございます。参加ご希望の方はお電話にてお問い合わせください。

●殺陣講座/講師:長掛憲司氏(劇団わらび座俳優)

基本や、古典的な型を学び、楽しく安全で格好良い殺陣を覚え、最終的に受講した方がイベントで活用できることを目指します。

【日時】①2月5日(日) 14:00～16:30

②2月5日(日) 18:00～20:30

【会場】①いわてアートサポートセンター リハーサル室

②プラザおでって リハーサル室

●歌唱講座/講師:丸岡千奈美氏(ソプラノ歌手)

発声と実技を通して、自分の声と向き合い、最終日には発表を!

【日時】①1月29日(日) 18:00～20:30

②2月4日(土) 14:00～16:30

【会場】プラザおでって リハーサル室

●ショートムービー作成講座/講師:千葉真一氏(フリーカメラマン)

動画撮影の初心者を対象に、実際の撮影実習を行いながらショートフィルム作成の基礎を学びましょう。

【日時】①1月28日(土)

14:00～16:30

②1月29日(日)

14:00～16:30

③2月4日(土)

18:00～20:30

【会場】いわてアートサポートセンター
風のアトリエ



【対象】40歳未満 【定員】各講座15名 【参加費】1講座1,500円 複数応募可

【申込み】下記問い合わせ先までお電話ください。※ご予約状況によっては受付できない場合がございます。あらかじめご了承ください。

【問合せ】特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター 〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卵ビル3F

TEL 019-604-9020 WEB <http://iwate-arts.jp>

<<その他詳細はいわてアートサポートセンター WEB サイトをご覧ください>>

真如苑様より「平成28年真如苑東日本大震災活動助成」として943,000円の助成金をいただきました。

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卵ビル3F

NPO法人いわてアートサポートセンター内

☎019-604-9020 FAX:019-604-9021

E-mail:kaze@iwate-arts.jp

<http://ibsn.web.fc2.com/>

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2074520

※口座名:いわて文化支援ネットワーク

ご支援、ご協力
ありがとうございます。

現在の支援金総額 **10,344,704円** (平成29年1月5日現在)